

国内クレジット認証委員会御中

審査結果概要書

平成 21 年 7 月 3 日

審査機関名 社団法人 日本能率協会

1. 排出削減事業の概要

排出削減事業名	名鉄クリーニング ボイラー設備ガス化事業
排出削減事業者名	株式会社名鉄クリーニング
排出削減共同実施事業者名	三菱 UFJ リース株式会社
事業実施場所	株式会社名鉄クリーニング 本社工場 (愛知県名古屋市区西貴生町 312 番地)
事業の概要	㈱名鉄クリーニング本社工場内の A 重油焚きボイラー設備を高効率のガス焚きボイラーに更新することで、エネルギー消費量を削減するとともに、CO2 排出量を削減する。
排出削減量の計画	942 tCO2/年 (事業実施期間合計 4043tCO2)
国内クレジット 認証期間	開始日 2008 年 12 月 16 日 終了予定日 2013 年 3 月 31 日
排出削減方法論	方法論番号 001 ボイラーの更新

2. 審査結果

本事業は、排出削減事業の要件に適合している

3. 実施した審査手続の概要

審査手続により、以下の排出削減事業の認証の要件の妥当性を確認している。

要件	審査手続
日本国内で実施されること	<p>事業計画が日本国内で実施されていることを、2009年6月26日に事業サイトを訪問して確認した。</p> <p>排出削減事業実施場所：(株)名鉄クリーニング本社工場 (住所：愛知県名古屋市西区貴生町312番地)</p>
追加性を有すること	<p>1) 本事業は、法的義務等の遵守のために計画されたものではなく、CO2排出量の削減を目的として実施されたことを、削減事業実施者への質問等により確認している。</p> <p>2) 経済的見地から判断して、本事業が最も魅力的な投資案とはなりえないこと、本事業が実施できない場合には、既存の設備が継続的に使用されることを質問、関連資料の閲覧により確認している。投資回収年数計算の根拠データにつき、関連証憑と突合することにより正確性を確認した結果、投資回収年数は4.3年であることを確認している。</p> <p>3) クリーニング業である削減事業者は、業務を実施する際に大量の蒸気を使用する必要がある。更新前に使用していたボイラーは年間900kl以上のA重油を使用しており、CO2の発生量も多く、周辺環境も考慮し、CO2排出量を減らしたいという事業者の考え、また近年の燃料費の高騰もあり、ESCO事業者からのガス化提案を受け、省エネセンターの補助金制度及び国内クレジット制度を活用することにより本事業を実施するに至ったことを確認している。国内クレジット制度活用を含めた提案がなければ、本削減事業の実現が困難であったと判断できる。また、名鉄グループ内では初の国内クレジット制度案件であり、事業者のCSR的観点から本制度を活用するに至ったことを確認している。</p>
自主行動計画に参加していない者により行われること	<p>排出削減実施者より、所属している団体である(社)愛知ビルメンテナンス協会(上部団体として全国ビルメンテナンス協会)が自主行動計画制度に入っていないことを確認している。また、株主である名古屋鉄道(株)及び(株)名鉄百貨店からの要請も受けていないことを確認している。</p>
排出削減方法論に基づいて実施されること	<p>本排出削減事業は、承認排出削減方法論001に基づき排出削減量を計算しており、また、其々の方法論の適用条件を満たしていることを個別に確認している。</p>

	<p>方法論番号 001 ボイラーの更新</p> <p>適用条件 1 については、ボイラー設備の視察、新旧ボイラー設備の仕様書の確認等によって、ボイラーの更新を行うことで高効率化を図ることが出来ることを確認している。</p> <p>適用条件 2 については、ボイラー日報を確認した結果 2008 年 12 月 14 日まで稼動していたことを確認した。また 2009 年 1 月に実施した法定点検結果についても確認した。これらより既存のボイラーを継続して利用できることを確認している。</p> <p>適用条件 3 については、事業サイトの視察、「株名鉄クリーニングにおける省エネルギー設備導入事業 竣工図」、及び関係者への質問等により、ボイラーで生産した蒸気が施設内の自家消費のために用いることを確認している。</p>
--	--

4. 特記事項

特になし

以上